

あいのかぜ

Vol. **53**
2026年

特集①
あの人
の
“働く理由”
を
聞いて
みました

特集② これからの“みんなの防災”

男女共同参画とやま 市民フェスティバル2025

男女共同参画社会づくり作文コンクール

あいのかぜとは?

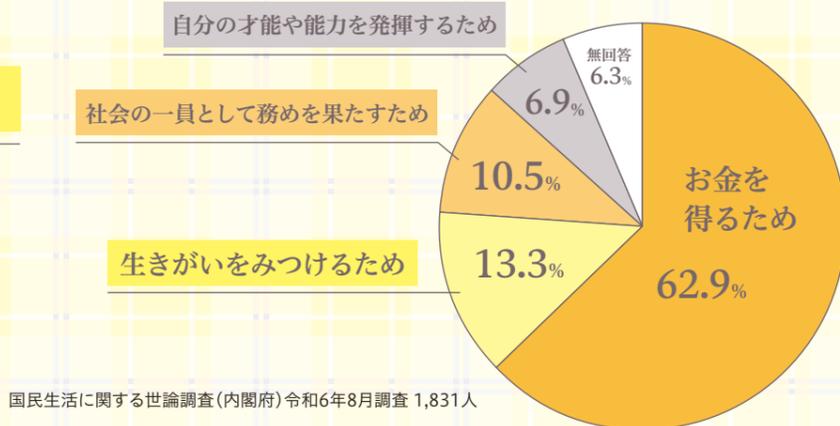
男女共同参画社会の実現に向けて、市民一人ひとりが
男女共同参画に関する正しい理解と認識を深めることを目的に、
公募市民3人からなる編集委員によって企画・編集された情報交流誌です。



あの人の“働く理由”を聞いてみました

毎日、誰かがどこかで働いています。
それは、暮らしのためだったり、誰かの笑顔のためだったり、そして自分自身のためだったり。
働く理由は人の数だけあって、そのどれもが尊く、大切なものです。
性別や立場にかかわらず、誰もが自分らしく働ける社会を目指して—
この特集では、さまざまな人たちに「働く理由」を聞いてみました。

? 働く目的は何か



01 女性リーダーとしての 勇気と挑戦

近藤建設株式会社
代表取締役社長 こん どう ひろ よ
近藤 裕世さん



P.3

02 人とのつながりを仕事に

HELLOWELLCOMPANY株式会社
代表 おお した ゆう か
大下 夕佳さん



P.4

03 “ありがとう”から始まる、 僕の仕事

介護老人保健施設みどり苑
介護福祉士 ほん だ りょう た
本田 稜太さん



P.5

04 支え合いながら、 教えるという仕事

高校教師
砂子 勲さん・朋子さん夫婦
すな ご いさお とも こ



P.6

Interview 01

Profile こん どう ひろ よ
近藤 裕世さん

近藤建設株式会社 代表取締役社長
富山市出身
金融機関、放送局勤務を経て、2005年近藤建設株式会社に入社。2015年、代表取締役社長に就任。商業施設や公共施設等の建設を手がける。



女性リーダーとしての勇気と挑戦 ～社員の心に寄り添うために～

男性が多い建設業界で、女性のリーダーとして活躍する近藤さんにお話を伺いました。

社長になられた経緯を教えてください。

祖父が創立し、父が継ぎ、私は三代目です。20代の頃は金融機関や放送局で勤務し、31歳でこの会社に入社。営業職等で10年間働いて、突然、社長交代を告げられたのです。私の父は「親分タイプ」の力強いリーダーで、その跡を継ぐことには大きなプレッシャーを感じました。社内外から信頼される女性リーダーになるにはどうすればいいのか、と自問自答の日々でした。失敗しても諦めない「挑戦者」という思いを持ち続けてきましたし、その気持ちは今も変わっていません。

社長として10年間、大切にしてきたことは何ですか。

社員の心に寄り添うことです。お客様に満足していただける仕事をするためには、社員がこの会社で働きがいを感じ、最大限の能力を発揮できることが大切だと考えています。そのため、昨年、「社員の社員による社員のためのウェルビーイング提案」というアンケートを実施し、社員の生の声を聞きました。約40の提案が寄せられ、特別休暇や長期休暇の導入・拡充、フレックスタイム制の導入など、できることからすぐに導入・改善しました。



やりがいを感じる時はどんなときですか。

社員の笑顔を見ることです。建設現場は常に危険と隣り合わせで、社員は緊張感のある表情で仕事をしています。でも、そんな現場で日々奮闘している社員が時折笑顔を見せてくれると、心からうれしくなります。

※女性管理職(会社役員等含む)の割合…富山県は13.3%で全国44位(令和2年国勢調査)

建設業界を志望する人にメッセージをお願いします。

建設業界の仕事は、人々の生活を守り、便利で快適な空間をつくる仕事です。誰もが安心して暮らせる社会づくりにも貢献できる、魅力的な仕事だと思います。一緒に、新しい建設業界の可能性を探求していきましょう。



4月開校予定の義務教育学校「水橋学園」の整備にも地元の企業グループで携わる

昨年11月に、富山商工会議所の副会頭に女性として初めて就任されました。そのときの気持ちをお聞かせください。

40歳になった頃、富山商工会議所に入りました。先輩の経営者の魅力的な姿を見ていると、自分の世界が広がり、目指すものもどんどん高く、大きくなっていったように思います。いつかあんなふうになりたいと憧れていたのが、副会頭に推薦されたときは驚きと感動でいっぱいでした。

富山では、企業の女性管理職の割合が低い※と言われていると思いますが、どのように思いますか？また、働く女性に対しメッセージをお願いします。

「女性が活躍しやすい環境をつくること」と「女性自身が昇格への意欲を高めること」、この両方がとても大切だと思います。職場だけでなく、家庭のサポートも必要です。どんな環境でも、心の持ちよう、考え次第で活躍の場と可能性は広がると思います。わが社にも輝く女性がたくさんいます。皆さんもぜひ、挑戦する前向きな気持ちを大切に、輝いてほしいです！

Interview 02

Profile おおした ゆうか
大下 夕佳 さん

HELLOWELLCOMPANY株式会社 代表
富山市黒瀬谷出身

心と体の健康に関わるテーマで、化粧品の開発・販売、シャクヤクの摘み取り体験、黒瀬谷地区でとれた米の販売促進、アロマのワークショップなどを行う。



人とのつながりを仕事に ～黒瀬谷で働く、生きる～

緑茂る山々を背に、富山市街地を一望できる八尾・黒瀬谷地区。

そこを拠点に、ユニークな事業を展開している大下さんにお話を伺いました。

起業のきっかけを教えてください。

起業のきっかけは、富山の薬品会社の方と化粧品の共同開発を始めたことです。約8年前、肌トラブルに悩む家族が、ケアのたびに苦勞する姿を間近で見ていたので、「本当に安心して使えるものを作りたい」という一心で開発しました。試作と改良を繰り返し、約2年。ようやく納得のいく製品が完成しました。あの時の達成感は今でも忘れられません。

シャクヤクの摘み取り体験について教えてください。

フラワーロス対策として始めました。黒瀬谷地区で育てていたシャクヤクがコロナ禍で全く売れなくなり、農家の方が困っていたため、「お客さんに摘んでもらおう」と思い立ち、始めました。毎年5月に行っていて、昨年で6年目になりました。リピーターの方も多いです。

シャクヤクは咲かせるのが難しい花だとよく言われます。体験会では、お花を長く楽しんでいただくため、咲く直前の、奥にふわっと柔らかさを感じるつぼみの状態で皆さんに摘んでもらっています。

摘み取り体験では約20種類のシャクヤクを摘み取ることができます。贈り物にもおすすめ。



大下さんは黒瀬谷で生まれたそうですね。黒瀬谷の魅力や思いについてお聞かせください。

私は都会や海外に行くのも好きですが、やはりここはいいなと感じます。どこに行っても、帰ってきたいと思う場所です。黒瀬谷の魅力は、自然の近さですね。一日一日違う自然に、面白さを感じます。

地域を盛り上げるために、みんながワクワクできるようなお手伝いができればうれしいです。

働く理由

大下さんにとって、働くこととは何ですか？

いろいろな事業に、「喜ばれるに違いない！」という“思い込み力”で取り組んできました。やはり、人の役に立つこと、元気になってもらえることに喜びを感じます。

また、いろんな人と出会い、お話しすると、頭の中だけで考えていた世界が広がる感じがして、とても楽しいです。

「すみません、今日も来ちゃいました。」そんなコミュニケーションが、私は好きなんだと思います。

これから取り組みたいことはありますか？

私は「わな猟免許」を持っていて、ジビエのレシピ開発にとっても興味があります。

夢に向かって頑張っている人へメッセージをお願いします。

いろいろなことにチャレンジしてみてください。どんなに小さなことでも、行動に移してみると、困ったときに助けてくれる人が必ず現れます。出会いが増えればつながりもできて、自然と成長していけると思います。

Interview 03

Profile ほんだ りょうた
本田 稜太 さん

介護福祉士

富山市出身、富山福祉短期大学 卒業。

2025年4月、特定医療法人財団五省会に入社。介護老人保健施設みどり苑(秋ヶ島)で入浴・食事・排泄介助など、利用者の生活全般をサポート。



“ありがとう”から始まる、僕の仕事 ～感謝の中で育てられていく自分～

誰かのために働くことが、自分を育ててくれる。

人が人に感謝する関係の中で働くことの喜びを本田さんに伺いました。

働く理由

介護の仕事を選んだきっかけは何ですか？

私の兄が、障害がある方の介護士をしています。兄から勧められたことも一つですが、日頃から仕事の話を聞くうちに、この職業を身近に感じるようになりました。また、私自身「おばあちゃん子」で、小さい頃から高齢の方と接する機会が多かったこともあり、自然と介護の仕事に興味を持ちました。

入社1年目の現在、どのように働いていますか？

プリセプター制度※1があり、男性の先輩がマンツーマンで丁寧に指導してくれます。年が近いこともあって、何でも相談しやすく、安心して働ける環境です。休日は、法人内のフットサルチームで体を動かしたり、友だちと過ごしたりしてリフレッシュしています。

「みどり苑」の良さを教えてください。

介護DX※2がすすんでいることです。部屋の様子を24時間見守るAIを利用したシステムや、音声入力での介護記録ができるアプリなどを使って、効率的にケアすることができると、利用者さんと、ゆっくり向き合える時間が増えました。



また、みどり苑は男性の介護士が多く、育休を取得した方もいて、福利厚生がしっかりしています。

※1プリセプター制度…一人の先輩が、一人の新人に対し、一定期間マンツーマンで指導・教育・精神的サポートを行う新人育成制度

※2介護DX(デジタルトランスフォーメーション)…最新の介護テクノロジーを活用し、現場の業務や働き方、サービスを改善すること。職員の負担を減らし、質の高いケアの提供を目指す。

どんな時にやりがいを感じますか？

大変だったことは何ですか？

利用者さんから「ありがとう」「助かったよ」「レクリエーションが楽しかったよ」などと笑顔で声をかけられると本当にうれしいし、私も「今日も元気でありがとう」というあたたかい気持ちになるんです。そう感じる瞬間が、この仕事の魅力です。

例えば、ものをつくる仕事も素晴らしいけれど、つくった人に直接「ありがとう」と伝える機会はなかなかないと思います。介護の仕事は、直接、感謝の言葉をもらえ、そのたびに「自分が誰かの役に立っている」と感じられて、うれしくなるんです。

大変だったのは、最初にお名前と顔、一人一人の体の具合を覚えること。早く覚えて、利用者さんと関わりたいという思いで、頑張りました。

これからの目標を教えてください。

早く先輩ができたらいいな！自分を指導してくれた先輩のように、頼られる存在になることが目標です。今後は、夜勤にも挑戦して、さらに成長したいです。また、介護という仕事の魅力をもっと発信して、一緒に働く仲間を増やしていきたいと思っています。

介護士を目指す人へメッセージをお願いします。

介護というネガティブなイメージを持たれることもありますが、実際は全く違います。大変なこともありますが、性別に関係なく活躍でき、人生の先輩から学ぶことも多い仕事です。人と関わることが好きな人には、きっと天職になると思います。

Interview 04



Profile すなごいさお
砂子 勲さん

高校の数学教諭として39年勤める。
現在、再任教員として富山県立富山中部
高校に勤務。

Profile すなごともこ
砂子 朋子さん

高校の英語教諭として32年勤める。
県教育委員会からの出向で、2024年4月か
ら英語教員として富山外国語専門学校に
勤務。

支え合いながら、教えるという仕事 ～夫婦で歩む教育現場から～

教員として共に歩んできたお二人に、仕事と家庭との両立、働き方とその課題、やりがいについて伺いました。

お二人とも長く教壇に立ちながら、ご自身のお子さんを育てて来られました。家事や育児は、どのように分担されておりましたか？

朋子さん 夫が子どもを見ている間に家事を片付けていました。子どもが小さい頃、よく旅行やキャンプに行ったことは、今でも心に残っている大切な思い出です。

勲さん 忙しい中でもできることを分担していました。当時は私を含め、男性で育休を取る人はいなかったな。今もそんなにいないので、男性も当たり前が取れる環境になってほしいです。

普段のご夫婦の会話は、やはり学校のことが多いのでしょうか？

朋子さん そうですね。その日にあった出来事など、つい学校の話ばかりになってしまいます。

勲さん 教育の情報交換をしたり、お互いに相談し合ったりしています。

朋子さん 同じ職業だからこそ共感できる部分も多く、良き理解者ですね。

教員の働き方はどうですか。昔と比べて変わりましたか？

勲さん 昔のほうが、今よりのんびりしていた気がします。今はデジタル化が進んで便利になった反面、仕事が増えた面もあります。

朋子さん 高校に勤務していた頃は、教える内容も難しくなり、量も増えました。授業の準備だけでなく、行事や事務的なことも多くて、正直、もう少し時間が欲しいと感じていました。生徒とじっくり向き合いたくても、その時間を作るのが難しく、もどかしい気持ちになることもありました。

勲さん 小さなお子さんを育てながら働く先生にとっては、保育園からの急な呼び出しや早退など、どうしても避けられないことがあります。そうしたときに気兼ねなく助け合える職場づくりができれば、安心して働ける職場になると思います。

これまで働く中で「男女の差」を感じたことはありますか？

朋子さん 教員になったばかりのころ、お茶を入れたり掃除をしたりするのは女性教員の役目だとされていて、当時から「おかしいな」と感じていました。今はそうしたことはありませんが、「おかしいな」と感じる事があれば、私たちの年代が声をあげていくことが大切だと思っています。そうすることで、若い教員も声をあげやすくなるのではないのでしょうか。

お二人とも部活動の顧問を経験されていますね。

朋子さん 私は以前、吹奏楽部の顧問をしていました。夏は冷房のない場所で練習する日もあって、生徒も先生も汗だく。でも、コンクールや定期演奏会に向けて頑張る生徒を見ると、やっぱり力になりたいと思いました。

勲さん 私も現在、吹奏楽部の顧問をしています。行事前はどうしても休みが少なくなります。妻も同じ経験をしているので、気持ちりが分かり合えるところがあります。

朋子さん そうだね。「今はそういう時期だね」と声を掛け合っています。大変な時期も、お互いに理解し合えるのは心強いですね。

教員をしていてよかったと感じる瞬間を教えてください。

働く理由

勲さん 卒業した教え子から飲み会に誘われることがあります。立派に成長した姿を見ると本当にうれしく、感慨深いです。

朋子さん 教育とは、本人が目標に向かって自立していくための小さなきっかけづくりです。最終的に勉強するのは本人自身。だからこそ、「自分でやらなきゃいけない」と気づいてもらうことが何より大事です。後から「先生にああ言う風に言ってもらったから、自分で頑張ろうと思えた」と言われると、心からよかったなと思います。その「気づき」の一步に自分が関わられたと感じられると、本当にうれしいです。

これから教員を目指す人へメッセージをお願いします。

勲さん 教員という仕事は決して楽ではありませんが、お互いを尊重し合いながら、無理なく続けられる環境を皆さんとつくっていったらと思います。

朋子さん 今の努力はきっと実を結び、自分の成長が生徒の未来にもつながっていくと思います。教員の仕事は大変ですが、その分やりがいも大きいので、ぜひ頑張ってください。



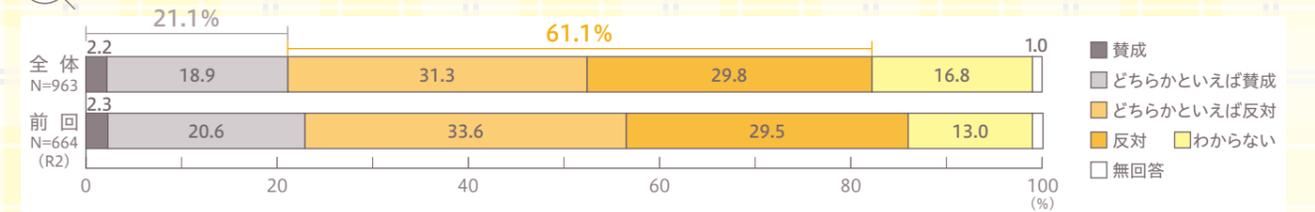
「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施しました

市では、「富山市男女共同参画プラン」を策定し、性別に関わりなくその個性と能力を十分に発揮できる社会の実現に向けてさまざまな取り組みを行っています。

男女共同参画の実態や課題等を調査し、令和9年度から始まる「第3次富山市男女共同参画プラン」の基礎資料とするため、令和7年8月に市民の方を対象にしたアンケートを行いました。その結果を一部紹介します。

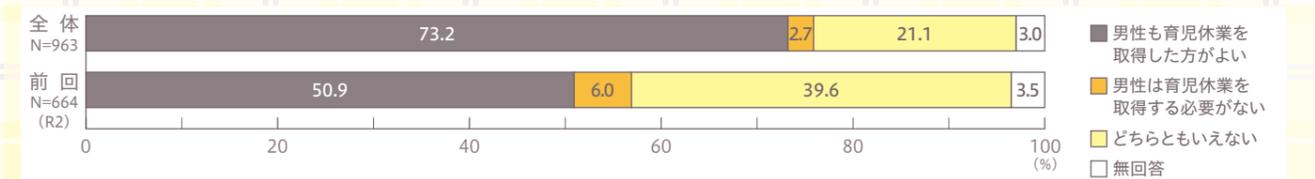
調査対象	富山市に居住する満18歳以上79歳以下の男女3,000人	回収結果	有効回答数963人 (有効回答率32.1%)
------	------------------------------	------	---------------------------

「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について、賛成ですか？反対ですか？



「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について、「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた割合は、全体では61.1%と、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合21.1%を40.0ポイント上回っていました。

男性が職場で育児休業を取得することについて、どう思いますか？



「取得した方がよい」との回答は、前回調査に比べ22.3ポイント上昇し、5年前と比較して男性の育児休業取得に対する意識は大きく改善していると考えられます。

市では、調査で得られた結果を、今後の男女共同参画に関する計画や施策に生かしていきたいと考えています。

調査にご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。結果の詳細は市ホームページに掲載しています。



防災士・鈴木さんに聞きました!

これからの“みんなの防災”

近年の自然災害の増加を背景に、地域では自主防災組織の結成や体制づくりが進められています。従来、男性が中心となるイメージが強かった防災活動ですが、性別にとらわれず、誰もが支え合う組織づくりが求められています。

さまざまな視点を取り入れ、地域の防災力を向上させるために私たちにできることは何でしょうか。個人や地域で実践できる具体的な取り組みについて、防災士の鈴木佑実さんにお話を伺いました。



Profile すずき ゆみ
鈴木 佑実 さん

防災士(富山県防災士会所属)
静岡県生まれ。
ケーブルテレビ富山「防災スイッチON! とやま」の番組ナビゲーターも務める。
二児の母。



みんなで防災に取り組む社会を実現するためには、日ごろからどんなことに取り組んでいけばいいのでしょうか。

A 以前、新庄地区の防災訓練会場の一角で「赤ちゃんの防災」講座を担当したとき、多くの赤ちゃん連れのご家族が参加してくれました。若い世代が防災活動に参加しやすいよう上手に工夫されていると感じました。また、地域で行っている住民運動会や草刈りなど身近な行事に、防災要素を少し加えるだけでも、参加のハードルは下がると思いませんか。
小さなことから良いので、地域で防災を考える機会を設けていただき、それぞれの立場で「災害時にこんな物があたらいいね」「こんな空間があると安心だね」と、声を上げてほしいと思います。

新庄地区の防災訓練会場で行った「赤ちゃんの防災」講座



能登半島地震や豪雨災害発生後、どのような活動をされましたか。

A 富山市のケーブルテレビに勤めていますので、発災後は被害状況の取材や生活情報の発信を行っていました。防災士の活動としては、被災地でボランティア活動に参加しました。避難所の寒さや物資不足などの課題、住民同士が声を掛け合って避難できた良い事例など、現場で多くの声を聞きました。
こうした経験を今後の備えに生かすため、震災後は講演などを通じて防災の大切さを伝える活動を続けています。



災害ボランティアの皆さんと

避難所開設や運営について、どのような問題がありますか。

A 富山市では避難所の開設については行政が、運営については住民が主体となって行うことになっています。避難所には高齢者や障害のある人、乳幼児、外国人、LGBTQ(性的少数者)など多様な人が集まるため、画一的な運営では十分に対応できず、支援が遅れることもあります。
だからこそ「地区防災計画※」が重要なのではないのでしょうか。地域の実情や必要な支援を一番理解しているのは地域の皆さんです。多角的に検討し、地区ごとに計画を作って見直しながら、避難所運営の訓練を重ねていくことが大切です。

※地区防災計画…地区居住者等が地域防災力の向上のために、自発的に行う防災活動に関する計画。地区の特性に応じて自由に決めることができる。

炊き出しは、女性が行うものというイメージがあり、負担が大きいように思われます。一方で、男性にとって負担となっている役割にはどのようなものがあるのでしょうか。

A 能登町の避難所では、女性に食事作りやトイレ掃除が集中し、休む間もなかったそうです。炊き出しボランティアが来たとき、「初めて休めた」と涙が出るほどうれしかったと語ってくれました。一方で、空き巣対策のパトロールや力仕事はほぼ男性が担っていたということです。
また、避難所の運営責任を担う人は男性が多いと聞いたことがあります。いずれにしても、責任ある立場や役割が男女問わず一部のみに集中する状況は好ましくないと感じます。
性別による役割分担の偏りが災害時には顕著に表れます。だからこそ、平常時から家庭や地域で、性別による役割固定がないか見直すことが重要だと考えています。

避難所の運営組織に女性がいることによるメリットとは?

A 輪島市の避難所で、大勢の前で男性が生理用品を配っており、非常に受け取りづらかったという声を聞きました。生理用品の扱いや着替え場所・授乳スペースの不足は過去の災害でも繰り返されており、避難所の被害も後を絶ちません。こうした問題が続くのは、女性の声が十分に反映されていないためだと感じます。
必要な人に必要な支援が届きやすくなるように、女性のほか、子育て世代、障害のある人やその家族、介護をしている人など、多様な立場の人が組織運営に関わることを願っています。

教えて! ママ防災士の鈴木さん!

赤ちゃん と 家族の備え

0歳児のママである鈴木さんにお出かけ時のバッグの中身を見せていただきました。



お出かけバッグ



防災ポーチ

- ① おむつ ② おしりふき ③ おむつがえシート
- ④ 着替え ⑤ ミルク(液体ミルクがおすすめ)、哺乳瓶
- ⑥ 離乳食(レトルト) ⑦ 授乳ケープ(大判のストールでも代用可)
- ⑧ マイナンバーカード(健康保険証)、母子健康手帳
- ⑨ ハンカチ ⑩ お気に入りのおもちゃ
- ⑪ 抱っこひも(避難時の必須アイテム!)

いつものお出かけバッグに「防災ポーチ」をプラス! ご家庭の事情に合わせてご準備ください。

- ① 懐中電灯 ② ホイッスル(助けを呼ぶため)
- ③ 常備薬、コンタクトレンズ ④ 生理用品
- ⑤ ウエットティッシュ、ティッシュ ⑥ 毛抜き(ガラスやとげを抜くため)
- ⑦ 現金 ⑧ 筆記用具、メモ用紙
- ⑨ 携帯食(あめ、ようかん、シリアルバー等)
- ⑩ 携帯電話のモバイルバッテリー

ご存じですか? 紙コップ授乳

- 1 小さめの紙コップに、液体ミルクを注ぐ
- 2 赤ちゃんを縦に抱く
- 3 コップの縁が下唇に触れるように傾ける

※ ミルクを赤ちゃんの口に流し込まないように注意してください。
※ こぼれて汚れるのが心配な場合は、赤ちゃんの首元にタオルなどを敷きましょう。
※ 30分程時間をかけて、ゆっくり授乳してください。

断水時には哺乳瓶を洗って消毒することが難しいかもしれません。そのとき「紙コップ授乳」が役立ちます。



内閣府男女共同参画局のホームページに、男女共同参画の視点からの「備蓄チェックシート」「避難所チェックシート」が掲載されています。ご活用ください。



男女共同参画とやま 市民フェスティバル2025

一人一人が個性を発揮し、互いに尊重し支え合う男女共同参画社会を実現するため「男女共同参画とやま市民フェスティバル2025」を、11月22日(土)、富山県教育文化会館で開催しました。

講演会
「みんなで考えるワーク・ライフ・バランス ～働き方も、家族のことも、夢も自分らしく～」
講師：木山 裕策 さん(シンガー)



歌手としてだけでなくバラエティ番組でもおなじみの木山裕策さん。4人の息子の子育て、仕事との両立、夢をあきらめないことの大切さなどについて語っていただきました。

声が出なくなるかもしれない

木山さんは36歳のときに甲状腺がんになり、手術の前日、医師から「最悪の場合、声が出なくなるかもしれません」と言われました。子どもの頃から歌が大好きで、いつか歌を歌える日が来たらいいなと思っていた木山さんは、その一言で心の片隅にずっと押しやっていた夢に初めて気づいたそうです。

手術の結果、声が残った木山さんは、夢に挑戦することを決意。現実とは甘くなく、何度も失敗しましたが、オーディション番組でチャンスを得て、39歳のとき楽曲「home」でデビューされました。

ワーク・ライフ・バランスを整える

木山さんは、病気のあと、自分の家庭の危うさを認識しました。がんになるまでの家庭の役割分担は、「お金を稼ぐ」=木山さん、「家事」=妻、「子育て」=妻というものでした。しかし、これではバランスが崩れやすいと考え、木山さんは会社を一時辞めて主夫になり、妻の社会復帰を全面的にサポート。お金、家事、子育ての3つの役割を夫婦でそれぞれ半分ずつ担えるように、少しずつワーク・ライフ・バランスを整えていきました。

考える力をつけるティータイム

子どもたちの「考える力」を育てるために、木山さんは家庭で「ティータイム」の習慣を長年続けています。お茶を飲みながら、家族で話をする時間です。「日本人には『男は黙って』という美徳があります。しかし、自分の子どもには辛いことがあったら、辛いと声をあげ、誰かに相談してほしいと願っています。自分の気持ちを伝えること、相手の意見を理解すること、その練習は子どものころからしておいた方が良いと思います。」と、「木山家流」子育てについて語りました。

最後に「生きづらい時代だとよく言われますが、自分で『考える力』を持っていれば、どんな時代でも楽しく生きていけると僕は信じています。」と参加者に呼びかけた木山さん。病気をきっかけに、自分の夢、家族のこと、自分の心に向き合って考え抜いてきた木山さんだからこそ、その言葉は力強く、説得力をもって、参加者の心に響いていたようでした。

講演後のミニコンサートでは、「home」のほか「愛は勝つ」「涙そうそう」など6曲を披露。会場は木山さんの澄んだ美しい歌声と、参加者の大きな拍手に包まれました。



Profile きやま ゆうさく
シンガー 木山 裕策 さん

1968年生まれ。
大阪府出身。東京都在住。
4人の息子の父。
2008年楽曲「home」でメジャーデビューし、NHK紅白歌合戦に初出場を果たす。その後も会社員と歌手の二足のわらじの生活を続け、2020年から歌手活動と講演活動を中心に生活している。

令和7年度 男女共同参画社会づくり 作文コンクール

富山市では、「男女共同参画社会」の実現に向けた意識づくりのために、市内の中学生を対象に、毎年、作文を募集しています。

今年度は170点の応募があり、その中から入賞作品16点が選ばれました。市民フェスティバルでは、最優秀賞と優秀賞の表彰式の後、最優秀賞を受賞した富山市立呉羽中学校2年の田中美緒さんによる朗読発表がありました。

田中さんの力強い発表に、会場に訪れた皆さんは真剣に耳を傾けていました。



最優秀賞 「普通」に潜む偏見をこえて

たなか みお
呉羽中学校2年 田中 美緒



男女平等が目指されている現代の社会。しかし、私は今でも「男だから…」「女だから…」といった言葉を耳にすることが多く、依然として男女を傷つける決めつけや偏見に満ちた行動や言動が、根強く残っていると感じる。

例えば、「男なんだから泣くな」という言葉。私はこの言葉を聞いたとき、胸が痛くなった。そんな決めつけがあると、自分の感情を押し殺してしまい、人としての自然な感情すら否定されてしまう気がする。あるドラマの中で、こんなセリフを聞いたことがある。「泣きたいときは我慢するな。笑いたいときはもっと我慢するな。」まさにその通りだと思う。人は、悲しいときや感動したときには、性別に関係なく泣いていいのだ。

また、「女だから力仕事はできないでしょ」という言葉も

同様だ。こうした思い込みは、その人の可能性を狭め、自信を失わせる原因にもなりかねない。なぜ人は、性別だけでその人の能力や役割を決めつけてしまうのだろうか。

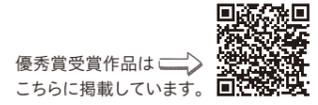
「男女共同参画社会」とは、単に権利を平等にすることだけではないと思う。性別という枠にとらわれず、お互いを理解し合い、認め合うこと。その姿勢があつてこそ、本当の意味での「平等」が実現するのだと思う。

私は、全ての人が堂々と自分の個性を発揮し、それが尊重される社会をつくりたい。そして、誰もが生き生きと自分らしく生活できるようになってほしいと願っている。そのためには、まず私たち自身が「男だから…」「女だから…」といった言葉を無意識に使わないよう、日頃から意識することが大切だ。また、周囲の人との違いを受け入れ、尊重する柔軟さと優しさを持つことも欠かせない。それは一見、小さな一歩に思えるかもしれない。しかし、一人ひとりの意識や行動が少しずつ変わっていくことで、それがやがて大きな力となり、社会を動かす原動力になると思う。つまり、何事も「積み重ね」が重要なのだ。

性別にとらわれることなく、全ての人が自分の夢を追いかけられる。そんな社会を目指して、私も今、できることから行動していきたい。

作品応募総数 170点

優秀賞	佳作	(敬称略・五十音順)
私がしてもらったように 平等な世界へ 誰もが輝ける社会へ 男女の家事・育児参加	「らしさ」は、「自分らしさ」 誰でも活躍できる社会に 将来の夢と男女の違い 僕が男女共同参画について思うこと。 男女平等を目標に 変えていくべき日本の社会 男女平等制服に似合う髪型とは 見方・考え方を変える 男女の一人称の違和感 「ぼくの家」の男女共同参画 男女差別が無い世界へ	月岡中学校3年 奥洞 実緒 八尾中学校2年 岩脇 のどか 片山学園中学校2年 大橋 琉凜 八尾中学校2年 印牧 蒼太 八尾中学校2年 岸 瑞子 片山学園中学校2年 坂越 美柚 城山中学校1年 中谷 俊太 呉羽中学校2年 細矢 優花 岩瀬中学校2年 山口 新太 呉羽中学校1年 山崎 光貴 八尾中学校1年 脇阪 優希



官民連携の取り組み

市民フェスティバルの会場では、富山市と包括連携協定を締結している「日本海ガス絆ホールディングス」によるパネル展示も実施。働きやすい職場づくりや社員の意識改革などの取り組みを紹介されました。



男女共同参画推進センターからのお知らせ



男女共同参画に関するさまざまな学習啓発講座を、無料で開催しています。詳しくは「広報とやま」に随時掲載します。どうぞお気軽にご参加ください。

男女共同参画講座を開催しました

自己理解から考えるコミュニケーション ～あなたもOK、わたしもOK～

- 日時：令和7年5月17日(土)14:00～15:30
- 場所：とやま市民交流館(CiC3階)
- 講師：野口 喜美代さん(NPO法人日本交流分析協会北陸支部 准教授)



心理学の交流分析を活用して、自分のコミュニケーションのクセを理解し、その改善方法を学ぶ講座を開催しました。「人と関わることの良さを実感できた。やってみると意外にできて笑顔も増えるし、褒められると気分が良い。」と受講者から感想があり、人との対話による交流を楽しみました。

各種相談を行っています

相談日程は、市ホームページで案内しています。

- DV(配偶者・パートナーからの暴力)相談
DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、配偶者や恋人など親密な関係にある人からの暴力のことをいいます。夫婦やパートナーに関する悩みは、ひとりで悩まず、ご相談ください。
- 弁護士による夫婦・男女に関する法律相談
- 臨床心理士による夫婦・男女に関する悩み相談



DV相談 専用電話

TEL:076-433-2210

※来所相談については、電話予約をお願いします。



お問い合わせ

富山市男女共同参画推進センター

新富町一丁目2-3 CiC3階
TEL:076-433-1760

詳細はこちら▶



編集後記



城尾 編集委員

「働く」をテーマとした今回の特集では、さまざまな職種や立場の方々から、それぞれの想いや願い、メッセージを伺いました。取材を通して、あたたかな優しさにふれた場面もあれば、迷いながらもぶれずに歩み続ける勇気を感じた瞬間もありました。お一人お一人の言葉には、その人らしい「働く」があり、改めてその多様さに気づかされました。

読み終えたあと、それぞれの「働く」を考えるきっかけになっていただけたらうれしいです。

村上 編集委員

「聞き上手になりたい」と思う。昔の思い出や、専門家や名人の話、感動的な話、ドジな話、どんな話でも聞くことで自分の心をときめかせたい。素直な気持ちで好奇心の赴くまま人の話を聞いたとき、自分の気持ちもそこに重ね合わさって必ず新しい何かを感じ取る。

今回取材させていただいた近藤裕世さんと鈴木佑美さんのお言葉は真摯で美しかった。「今」をひたむきに生き、楽しみ、夢と希望にいちずに立ち向かっている人の言葉。気負いも誇張も野望もない、威張りもしない。お人柄が滲んでいて、優しい言葉で壮大な未来を語っている。こちらにも夢が乗り移ってきたと思った。

藤井 編集委員

特集記事では「働く」をテーマにいろいろな職業の方にお話を伺いました。自分とは違う、別の働き方があることについて考えるきっかけを読者の皆さまに提供したいと思ったのですが、その意図が少しでも伝わったら幸いです。

編集会議での話し合いや作業の過程で「富山で働き暮らすこと」について改めて考える時間を持てたことは、私自身の生活を見つめ直すことにもなり、大きな収穫でしたが、同時に、自分がいかに富山のことを知らないかを思い知らされました。これからは「富山のいいところ探し」を頑張りたいと思っています。

■編集・発行

富山市市民生活部 市民協働相談課

〒930-8510 富山市新桜町7-38 Tel.076-443-2051 Fax.076-443-2176

E-mail: siminkyodo@city.toyama.lg.jp

バックナンバーを公開しています。



この号の発刊に際しまして、多くの方々にご協力いただき、ありがとうございました。

2026年3月発行